

あ な た と 市 政 を む す ぶ



かんおんじ

2024 / 令和6年 11 November

さぬき大野原  
はらおどり





## さぬき大野原はらおどり

おなかに大きな顔を描いて踊る「はらおどり」を見たことはありますか。大野原町を中心に20年以上活動続ける市民活動団体「さぬき大野原はらおどり同好会」を紹介します。

### 地域を盛り上げる

#### ものが欲しい

おなかに顔に見立てて絵を描き、音楽に合わせて体を揺らせたり、脚を上げたりして踊る「さぬき大野原はらおどり」。9月に行われた萩まつりをはじめ、粟井あじさい祭りや大野原サマーフェスティバルなど、市内のさまざまなイベントでそのユニークな踊りを見ることが出来ます。おなかに触ったり、握手をしたりするのも自由で、見た人が自然と笑顔になります。

「凶腹」と呼ばれるさまざまな表情の顔の絵を腹に描いた人たちが踊りながら練り歩く北海道富良野市の夏祭り「北海へそ祭り」を見た、西山嘉計さん（さぬき大野原はらおどり同好会初代会長）が「大野原町にも何か地域を盛り上げるものが欲しい」という思いで、商工会に呼び掛け、2001年に「さぬき大野原はらおどり」が始まり



発足当時のイベント出演風景

ました。現在、メンバーは男女合わせて23人。経営者や銀行員、会社員、農業者など、職業や年齢もさまざまな有志が活動しています。「はらおどりは地域のためにある。おなかの顔とユーモアたっぷりの動きを見て、腹を抱えて笑って欲しい」と2代目会長の石川登さんは話します。



## 笑顔で地域を盛り上げる

私ははらおどり同好会に入ったのは2003年から。体が細いので声は掛からないかと思っていましたが、半ば強引に薦められて(笑い)、20年以上続けています。

市内のイベント出演をはじめ、新型コロナウイルス感染拡大前は敬老会や老人ホームに慰問に行っていました。老人ホームは観音寺や三豊だけでなく、丸亀や善通寺、琴平など、あちこちから声が掛かっていました。いつも苦虫を噛み潰したような顔をしている人や一日中黙ってずっと座っている人が、私たちの踊りを見て、手を叩いて喜んだり、立ち上がっておなかを触ったりしてニコニコ笑ってくれます。イベントに出演したときはバス2台で連なってカメラマンが撮影に来ることもありました。

メンバーは主に市内各地から集まり、最高齢は80歳。年齢や職業はさまざまですが、終わった後は腹の化粧を落とし、お風呂で背中を流し合っています。文字どおり裸の付き合いなので、何でも言い合える関係です。

地域を盛り上げること以外は、踊り方も含めてすべて自由。しんどかったら踊らず立っていても絵になるのが、はらおどりの良いところです。いつでも誰でも、メンバーに入ってもらいたいと思います。



さぬき大野原はらおどり同好会  
会長 石川 登さん

腕を上げているのは白粉をきれいに乾かすためです



## はらおどりの舞台裏

白粉を塗って、水性ペンキで顔を描き、衣装を身に付けて、準備は2時間掛かります。舞台裏をのぞくと、おなかの顔に負けないくらい笑顔と笑い声でいっぱいでした。

